

生活科



間瀬田 恵美

研究の概要

【問題意識】

昨年度までの成果と課題から

- ・ 幼児期の学びや実生活での経験を生かすことで、自ら経験を振り返り、協働して学ぶ姿が見られた。また、総合的な学習の時間とのつながりを意識したことで、見通しをもち、実生活でも学び続けようとする態度を育むことができた。一方で、多様な考えにふれる機会づくりが課題として残った。

子どもの実態から

- ・ 幼児期の経験や発達の段階は多様であり、思いや願いを自覚したり表出したりすることについては、個人差が大きい。また、この時期の子どもは、物事を自己中心的に捉えがちで、身の回りの様々な対象への関心は十分とは言えない。好奇心が旺盛ではあるが、興味が長続きせず、他のものに関心が移りやすい。そこで今後は、友達存在を意識させ、思いや願いを共有することを通して、多様な考えや経験にふれることができるようにしていく必要がある。

教師の思いから

- ・ 子どもの言動や表情、変容から、表出されていない思いや願いを汲み取りたい。安心して思いや願いを表現し、共有できる場をつくることで、多様な考えや経験にふれ、自分や友達のよさを感じることができるようにしたい。

【生活科学習でめざす子どもの姿】

- 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらのかかわり等に興味をもつ姿
- 具体的な活動や体験を通して、対象との共通点、相違点、自分自身のよさに気付く姿
- 自らのよさを発揮したり、互いのよさやそれぞれの気付きを共鳴したりする姿

【研究内容 1】

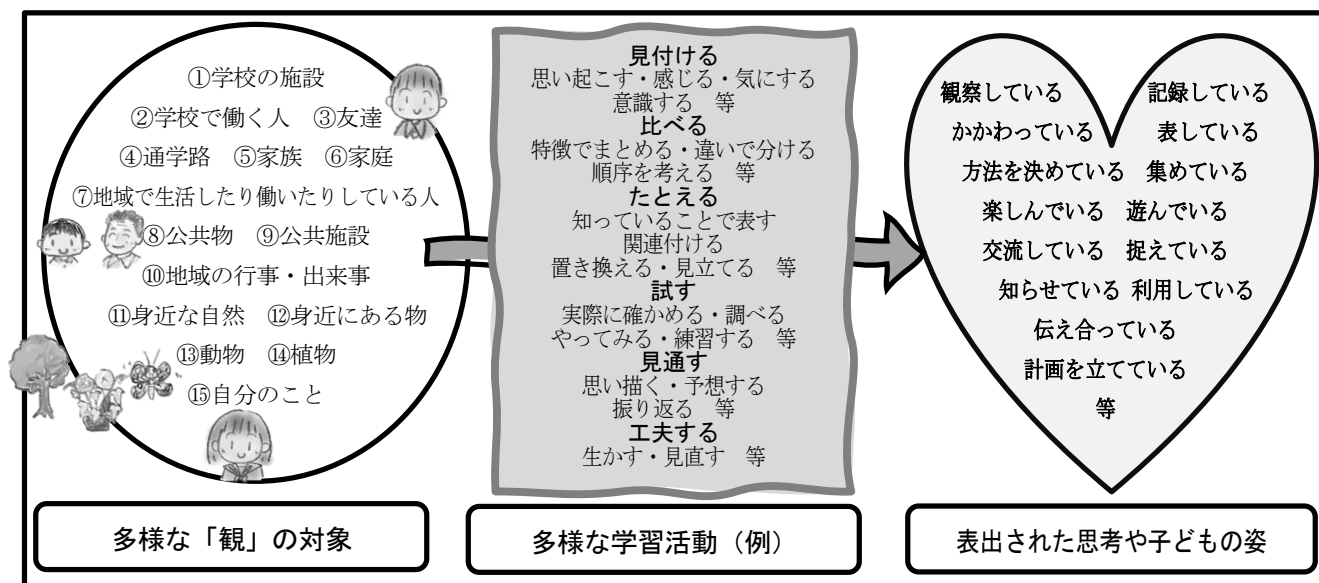
「遊び」で多様な「観」を育むための手立ての在り方

研究内容

1 「遊び」で多様な「観」を育むための手立ての在り方

生活科の見方・考え方は、「身近な人々、社会及び自然を自分とのかかわりで捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現しようとする事」である。また、生活科は、幼児期の学びとの接続や、具体的な活動や体験、対象とのかかわりを通した学びを重視する教科である。

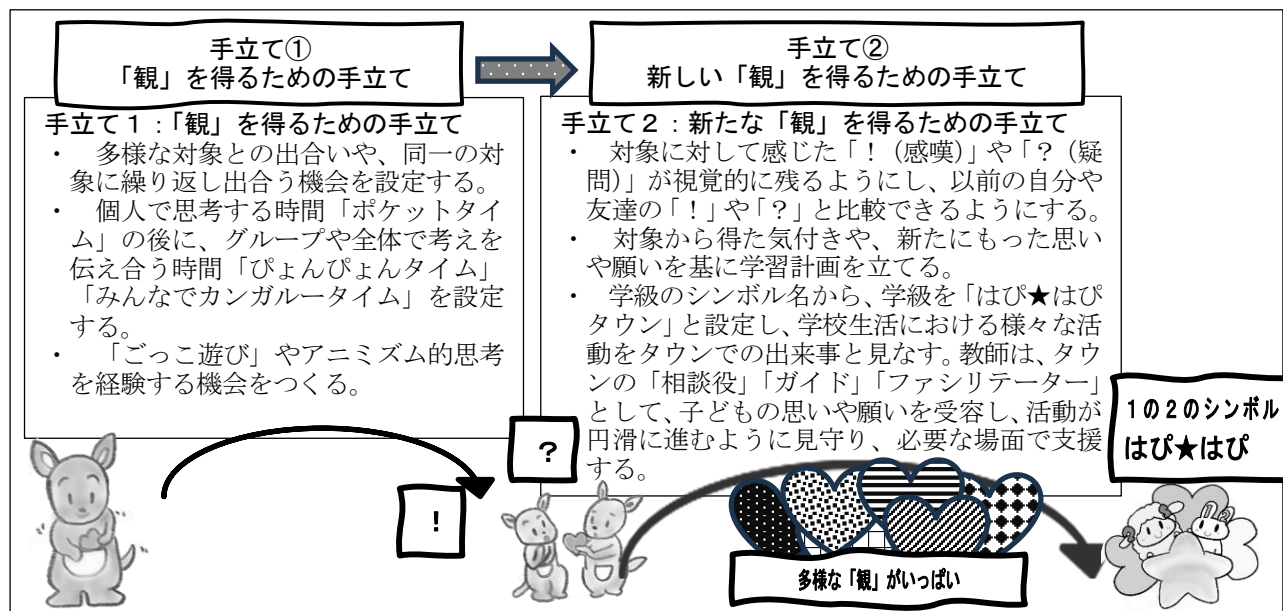
これらのことから、「観」の対象を友達や人に限定せず、子どもがかかわる全てのもの（他者）とする。また、本研究における「観」は「これまでの学びや経験を基にした、物事についての捉え方」と定義されており、内面の思考の深まりを期待するものである。そこで、教科の特性を踏まえ、子どもの変容を具体的に見取るために、生活科研究部における「観」を『見付ける』『比べる』『たとえる』『試す』『見通す』『工夫する』等の多様な学習活動において表出された思考や子どもの姿」と定義する。【図①】



【図① 生活科研究部における「観」の対象と「観」のイメージ図】

前研究において、幼児期の遊びや実生活での経験を生かす指導を行うことで、自ら経験を振り返り、協働して学ぶことができるようになることが明らかとなった。このような学びを支える学習環境づくりは、それぞれがもつ「観」を表出したり、全てのもの（他者）の「観」を受け入れたりするためにも有効であると考えられる。

そこで今年度は、引き続き、「幼児期の遊びを通した学び」を軸とし、思いや願いを安心して表出できる学級経営・学習環境の構成をめざす。具体的には、多様な「観」を愉しむ姿をめざすために、以下の2つの手立て【図②】を講じる。これらの手立てを通して、『遊び』で多様な『観』を育むことができたか」ということについて、子どもの発言や記述等を基に検証していく。



【図② 「2つの手立てのイメージ図」】

1 単元名

はぴ★はぴ シャボンだま けんきゅうじょ

2 単元の目標及び評価規準

(6) 自然や物を使った遊び		
シャボン玉をつくって遊ぶ活動を通して、つくってみたいシャボン玉や、つくったり飛ばしたりするための道具を工夫してつくることができ、シャボン玉の面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
① 身近にある物が、遊びに利用できることに気付いている。	① つくってみたいシャボン玉を思い描きながら、遊びに使う物を選んでいく。	① 楽しみたい遊びを創り出そうとしている。
② 遊びの楽しさや、遊びを工夫したり遊びを創り出したりする面白さに気付いている。	② 予想したり、確かめたり、見直したりしながら、遊びに使う物をつくったり遊んだりしている。	② 友達のよさを取り入れたり、自分との違いを生かしたりして、遊びを楽しもうとしている。
③ みんなで遊ぶ際に、道具や用具の準備や片付け、掃除、整理整頓をしている。	③ 自分と友達の遊びや遊びに使う物を、比べたり、試したりしながら、遊びを楽しんでいる。	③ みんなで遊ぶと生活が楽しくなることを実感し、毎日の生活を豊かにしようとしている。

3 単元について

本単元は、シャボン玉をつくって友達と遊ぶ活動を通して、遊びに使う物を工夫してつくり、自然や遊びの面白さに気づき、みんなと楽しみながら遊びを創り出すことができるようにすることをねらいとしている。
シャボン玉は、実生活において見たりつくったりすることができる身近なものであり、風に乗って飛んでいく様子には夢や希望を感じ、ワクワクするものである。シャボン玉をつくる際には、石鹼水の量、吹き方によって、大きさや数、丈夫さに違いが出たり、飛ばす際には、風の向きや強さが影響したりする。これらのことから、遊びの中で、様々な視点で思いや願いを交流することができ、多様な「観」が表出されると考える。
本単元は、自分が思い描いたシャボン玉を飛ばすために、試行錯誤しながら活動したり、同じ目的や異なる目的の友達と思いや願いを伝え合ったり、つくった物を見比べたりすることを通して、互いの「観」を感じながら、思いや願いの実現に向けて学びを調整する力の素地を育む上で意義がある。

4 子どもについて

子どもは、実生活や幼児期の教育において、シャボン玉遊びを経験している。しかし、既製のストローやおもちゃを用いており、道具をつくった経験はあまりない。9月単元「水遊び大作戦」においては、遊びや遊びに使う物をつくってグループで遊ぶ活動を行った。その際、経験を想起したり、試しながら遊んで改良したりするなど、試行錯誤する姿が見られた。また、困ったときに友達に相談したり、異なる意見が出たときに「2つともしたらよいと思う」と解決策を提案したり、日記に友達と遊ぶ楽しさを記したりするなど、友達と活動するよさや楽しさに気付く様子も見られた。しかし、自分がやりたいことだけを楽しんだり、遊びのイメージを広げられず戸惑ったりする姿も見られたため、人とのかかわる楽しさやよさを感じられるようにしていく必要がある。
抽出グループは、学習における思考・対話について調査した結果を数値化し、平均的な値だったグループとする。3名で構成されており、つくりたいシャボン玉が異なる（A児：「くつついている」、B児：「割れない」、C児：「何かの形」）。4月と8月に取ったアンケートを比較する中で、以下のような変容を見取ることができた。
A児： 個人での思考を好んでいたが「寂しいから」という理由でペアやグループ活動を好むようになった。 B児： 友達の考えを聴くことについて「とても好き」と好意的な評価になった。 C児： 自分の考えを友達に伝えることが「嫌い」だったが「まあまあ好き」となった。 友達の考えを聴くことについて「違う考えが浮かぶから友達の話の聴くことがとても好き」と回答している。

これらのことから、活動を通して、友達と学ぶ楽しさや意義に気づき始めたと考えられる。しかし、授業以外でかかわる姿は多く見られず、実生活でかかわる友達という意識は高まっていない。本単元を通して、友達との共通点や相違点に気づき、それぞれの「観」のよさを大切にしながら協働し、実生活でもかかわろうとする姿が見られることを期待したい。

5 研究内容

本単元における、多様な「観」を愉しむ子どもの姿

シャボン玉を飛ばす道具をつくって遊ぶ活動を通して、友達のものや遊び方のよさに気付いて取り入れたり、思いや願いに向けて試行錯誤したりしながら、自分や友達のよさに気付く姿。

1：「遊び」で多様な「観」を育むための手立ての在り方

前単元「はぴ★はぴ大きくせん」における靴下の洗濯をきっかけに「シャボン玉で遊びたい」という願いをもつ姿が多く見られたことと、前回の交流後の振り返りにおいて「幼稚園生と遊びたい」という意見が多かったことから、単元指導計画を作成する際に、1学期前半に交流した年長児と交流する場を設定することにした。

(1) 多様な「観」を得るための手立て

本単元において、学級を「はぴ★はぴシャボン玉研究所」、子どもを研究所員として「つくりたいシャボン玉を飛ばす方法を研究する」と設定する。そうすることで、自分の思いや願いの実現を図るために試行錯誤することを楽しんだり、シャボン玉をつくったり飛ばしたりする道具を見つめ直したりして、自分の「観」を客観的に捉えることができるようにする。

特に本時では、自分の思い描いたシャボン玉ができたかどうか試して、結果と原因を結び付けて考えたり、改良したりする場を設けることで、自分の思いや願いを言葉で表現し、友達に伝えることができるようにする。

(2) 新たな「観」を得るための手立て

本単元では、1学期前半「ともだち100人大作戦」時に編成したグループでの活動を取り入れ、共通の経験や年長児への思いを想起しながら、目的を共有して活動を行うことができるようにする。さらに、つくりたいシャボン玉が似ている友達と構成したグループでの活動も取り入れ、活動に応じてかわる相手を変えるようにすることで、多様な「観」にふれることができるようにする。

特に本時では、つくった道具で遊ぶ際に、これまでとは異なる相手と対話をさせることで、多様な考えに触れ、それぞれの遊びの面白さに気付いたり、よさを取り入れたり、違いを楽しんだりすることができるようにする。

6 単元指導計画（7時間）

段階	主な学習活動及び学習内容	教師の手立て	知・技	情意・態度	態
生 み 出 す (1)	1 シャボン玉で自由に遊び、これからの活動に見通しをもつ。〈1時間〉 ○ 自由遊び、単元のためへの設定 シャボン玉をつくって遊ぼう。	○ 石鹼水と、ストロー（同種類）1本で自由に遊ぶ時間を設定することで、友達と遊ぶ楽しさや遊び方の違いの面白さに気付くことができるようにする。 ○ 物足りなさを感じさせることで、「もっと工夫したい」という思いをもつことができるようにする。	①		
			行動観察		
挑 む (4)	2 シャボン玉づくりの計画を立て、道具を製作したり、試したりする。〈4時間〉 ○ つくってみたいシャボン玉 ・ 大きさ ・ 形 ・ 数 ・ 色 ○ やってみたい遊び ・ たくさん、遠くに飛ばす。 ・ 中に入る。 ○ 材料の選択 ・ ストロー ・ モール ・ ペットボトル ・ ゼリーの容器 ○ 道具の製作 ○ 試しの遊び、道具の改良	○ 前時に現れた様々な姿を動画等で紹介することで、遊びを創り出すことの楽しさや思いや願いが多様であることに気付くことができるようにする。 ○ 身近にある物を無作為に並べておくことで、自分に必要な物を選んだり、友達が選んだものに関心をもったりすることができるようにする。 ○ つくった道具で遊ぶ場を設定し、対話の相手を変えさせることで、多様な考えにふれ、よさを取り入れたり、違いを楽しんだりすることができるようにする。	②	① ② ③	① ②
			行動観察 記述分析		
本時 3/4					
生 か す (2)	3 シャボン玉大会を行い、活動を振り返る。〈2時間〉 ○ シャボン玉大会、振り返り	○ 年長児を招待し、みんなで遊ぶ場を設定することで、多様なシャボン玉や遊び方、感じ方がある楽しさを感じることができるようにする。	③		③
			行動観察 記述分析		

7 本時の目標

自分と友達のつくりたいシャボン玉やつくった道具を、比べたり、試したりしながら、遊びを楽しむことができる。

8 本時の指導過程

学習活動及び学習内容（★は評価にかかわるもの）	教師の手立て
1 本時学習について話し合う。 ○ つくりたいシャボン玉とつくった道具 ○ 本時のめあて シャボン玉を飛ばして、実験が成功したかどうかを確かめよう。 2 学習の見通しをもつ。 ○ 活動の流れの確認 ① ポケットタイム（個人） ② びよんびよんタイム（交流グループ） ③ みんなでカンガルータイム（全体） ④ ふりカエルタイム（個人） ゴール：「実験成功かどうかを確かめる。」 3 交流グループで、試しに遊ぶ。 ○ つくった道具とシャボン玉の比較 Aさん 私は、たくさんのシャボン玉をつくりたいから、ストローを3本くっつけてつくった。 Bさん ストローの数を増やしたところは、同じだ。でも、ぼくはシャボン玉をくっつけて割れないようにしたいから、理由が違うね。 ○ 意見の交流 Aさん 割れないシャボン玉ができたなら、面白そうだね。シャボン玉の中にシャボン玉を入れたら、強くならないかな。 4 成功するための方法を考える。（★） ○ 飛ばす道具や遊び方の改良 Aさん どうやったらシャボン玉をたくさん飛ばすことができるかな。ストローの数を100本にしたら、たくさんできるかな。 Cさん そんなにたくさんくっつけたら、息が苦しくて大変だよ。靴下の洗濯で遊んだみたいに、息を強く吹いたらどうかな。 Bさん 穴がたくさん空いていたら、たくさんできるのではないかな。画用紙に、たくさん穴を空けてみたらどうかな。 Aさん なるほど！でも、濡れたら、ぐちゃぐちゃになるなあ。あつ、家にある虫あみを使ってみようかな。 5 本時学習について振り返り、新たな思いや願いをもつ。 ○ 新たな思いや願い Aさん ストローを使うつもりだったけれど、グループの人に教えてもらって、穴がたくさん空いている物を使いたいと思いました。今度は、家から虫あみを持ってきます。	○ つくりたいシャボン玉やつくった道具について尋ね、つくっている道具を見せ合う場を設けることで、共通点や相違点に気付いたり、実際に確かめたいという思いを高めたりすることができるようにする。 ○ 交流活動の友達と活動し、様々なシャボン玉づくりを試すことを伝えることで、新たな思いや願いをもって、活動への意欲を高めることができるようにする。 ○ つくりたいシャボン玉が異なる友達と、試しに遊ぶ場を設定することで、つくったものを見合い、思い描いているシャボン玉は異なっている、それぞれのよさがあることに気付くことができるようにする。 ○ 試しに遊んで気付いたことを伝え合う場を設けることで、道具を見つめ直したり、改善策を考えたりして、友達と活動することのよさを味わうことができるようにする。 ○ 困っていることを相談したり、改良を行って試したりする場を設けることで、自分や友達に必要な活動を選んだり、思ったことを率直に伝えたり、「！」や「？」を表出したりすることができるようにする。 ○ 活動が停滞しているグループには、教師が「アドバイザー」として、他のグループの工夫を伝えたり、全体に相談する方法を提案したりすることで、考え方の異なる友達と協働するよさを実感できるようにする。 ○ 振り返ったことを全体場で紹介し、自分の振り返りと比べさせることで、それぞれのがんばりや、思いや願いの異なる友達と学ぶことのよさに気付くことができるようにする。

9 本時の評価規準

異なる思いや願いをもった友達と、つくりたいシャボン玉やつくった道具を比べたり、試したりしながら、遊びを楽しんでいる。
 （思考・判断・表現③）【行動観察】

10/5 はぴ☆はぴ シャボンだまけんきゅうじょ

第1時
シャボン玉で
遊んでいる写真

シャボンだまをとばして
せいうさせよう。

つくりたい
シャボンだま

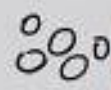
どうぐ

ともだち
ひやくにん
だいさくせん

つくり
なおす
ほうほうを
かえろ

つくる
たのす
けんきゅう




—



いきのふきかた
ゆっくり

トレイ



せいうしてうれしい！
ぜんぶだめ→トレイをつかおう
かんぱたらできた



